



お答えします!

子育ての 疑問・質問

vol.15

お答えいただいた
先生方

下山田 鮎美 [しもやまだ あゆみ]

山形県出身。専門は地域看護学。看護師・保健師。聖路加看護大学で看護学を学ぶ。卒業後、保健師としての経験を経て、看護師・保健師の基礎教育にあたるようになる。現、東北福祉大学健康科学部講師、同次世代育成支援室母子保健部、保健師、博士(都市科学)。

小笠原 明子 [おがさわら あきこ]

神奈川県出身。専門は野外保育論、保育士・認定心理士。「5歳児を富士山頂に登頂させる」ことで有名な保育園に長年勤めた後、次世代育成支援室幼児教育部に指導員として着任。野外保育(直接体験)を通じた「育ち」の支援を実践している。

前田 泰弘 [まえだ やすひろ]

東京都出身。専門は障害児治療保育学。臨床発達心理士、自然体験活動推進協議会(CONET)リーダー。現、東北福祉大学子ども科学部准教授、同社会貢献センター主任。野外での直接体験を通じた次世代の「生きる力」の育成を実践している。博士(教育学)。

Q.1

息子(5歳)がいます。幼稚園でたくさんのお友達と一緒に遊べないようで、とても心配です。お友達の好き嫌いがハッキリしているとか、おなじ子にだけベッタリで、その子がいなくなると1人で遊んでいます。母親としてどうアドバイスしたらいいでしょうか?

登米市 Tさん
28歳



前田先生

お子さんは、お友だちの好き嫌いがはっきりしているというよりは、とても慎重なお子さんなのかもしれません。いつも同じ子と遊ぶということ、幼稚園でも安心して一緒に遊べるお友達がいたらプラスにとらえていただくとうれしいと思います。

子どもの遊びについてですが、まずは、ひとりですっきりと遊びを楽しむこと(ひとり遊び)を通じて、物の扱い方やかわり方、法則などを知る、すなわち自分の世界を拡げていきます。その世界が広がると、他の人がしていることに興味をもつ、真似をする、やりとりをするなどのかかわりになっていきます。そして、やりとりの相手の数が徐々に増えていき、集団(お友達数人)での遊びになっていきます。今、お子さんはご自分が貯めて

きた力を、少しずつ世界で出している段階なのだと思います。同じ年代のお子さんは、お友達とたくさん遊んでいるのに...とどうしても気になってしまいますが、焦らず、お子さんのペースや今の遊びの段階を見守っていただければ良いのではないかと思います。ご自分のペースにあったお友達から、徐々にかわりが広がっていくと思います。

母親としてのアドバイスは...というご質問でしたが、幼稚園のお友だち一人ひとりの良いところをお子さんとの会話の中で少しずつ伝えてみてはいかがでしょうか? お子さん自身が気付いていなかったお友だちの姿を、お母さんのお話を通して知ること、安心してその子とかわることができるようになると思います。

Q.2

長男の言葉づかいが乱暴なので直したいです。長男は年長さんですが、近所に同じ年齢のお友だちがいないので、いつも小学校2、3年生のお兄ちゃん達に公園でよく遊んでもらっています。そのお兄ちゃん達の影響かな?と思うのですが…。夫や私は乱暴な言葉をつかわないように気をつけています。どう直していけばいいですか?

仙台市宮城野区 Sさん 32歳



小笠原先生

乱暴な言葉使いについてのご相談ですが、子どもが乱暴な言葉を使っているときに、その言葉の意味まで理解して使っていることは思いの外ありません。ご質問にもあったように「真似」をしていることが多いようです。しかし、使うタイミングが合っているため、大人はついイラッとしてしまいます。

子どもは、何か新しいことを覚えたらとりあえず使ってみます(試してみます)。これは、言葉も同じです。しかし、先ほどもお伝えした

通り、ただ真似て使ってみたり大人の反応を楽しんでいる場合もあります。

真似をしている場合は、私たち大人がその「言葉のもつ意味」や「言われた側の気持ち」などを率直に伝えていかなければなりません。また、否定するだけでなく、正しい言い方(こう言って欲しいと思う言葉)を伝え、正しい言い方ができたときには「誉める」ということもポイントになります。また、子どもは、一度言われたことをすぐに理解し行動に移すという

ことはなかなかできず、忘れた頃にまた繰り返してしまいます。ですから、躍起にならず、気長に伝えることが大切になってきます。

大人の反応を楽しんでいる場合は、少し「しらんぷり(無反応)」をすると子どもの反応が変わってきます。つまり、大人が反応しなければ、大人の気が引ける(反応する)正しい言い方をするようになってきます。そこで、すかさず「誉めてあげる」ことで、乱暴な言葉が減少していくことへと繋がっていきます。これは、感情的にしらんぷりをするのではないので、その後のお子さんの反応(誉めるポイント)を見逃さないように気をつけてください。また、このようなかわり方は、言葉使いだけでなく、子どもの行動(してほしくない行動と、してほしい行動)にも当てはまりますので、ご参考にさせていただきます。



Q.3

私は一昨年離婚してシングルマザーです。2人(6歳・4歳)の息子と3人暮らし。母子家庭の引け目を感じさせたくないので、おハシの持ち方、あいさつの仕方などなど、外に出ても後ろ指をさされないようにキチンとしつけをしているつもりです。でも最近では2人ともビクビクしているように見えます。手を上げたりはしていません。萎縮させる原因は私のしつけにあるのでしょうか? 何か助言をいただきたいです!



仙台市太白区 Rさん 29歳

下山田先生

6歳と4歳ということは、元気盛り。それなのに、ビクビクしているように見えるから、不安になったということですね。文面から、お子さんの将来を思うお気持ちがとても伝わってきました。お子さんたちのご様子とお母さんのしつけが直接関係しているのかどうかよく分からないので、質問を拝見しての印象をお伝えするにとどめますね。

文面を拝見したところ、お母さんご自身が「ひとり親家庭」の中で子育てをすること、そしてそのような環境の中で過ごす「お子さん」たちの育ちを不安に思われているのではないかと、それなのに、おひとりで頑張ろうとされているのではないかと感じました。

子どもたちが社会生活を送るうえで、基本的な生活習慣がきちんとしていることは、とても大切なことだと思います。そして、それを

身につける場のひとつが家庭であることは言うまでもありません。時にはビシッと叱ることも必要でしょう。

しかし、子どもたちは人の輪の中で育まれていく存在でもあります。特に、6歳・4歳とは、人の輪の中での経験が大きな意味を持つ年代のようにも思います。

お子さんたちの力を信じる。保育園(あるいは幼稚園)の先生たちの力を借り、お友だちとの相互作用にも委ねてみる。お母さんはその過程をしっかり見守る。というのはいかがでしょうか。「ひとり親」であってもそうでなくても、子どもたちに身につけてほしいことも身につけてほしいという願いも共通しているはずです。きっと一緒に取り組めると思います。

そして、今のお子さんたちにとって、お母さんは「心の基地」なのだと思います。時には甘

え、誉めてもらう・認めてもらうことでエネルギーを貯め、社会の中に出ていけるようになるための、「基地」としての役割。少しでいいので、このことを心の片隅においてみてはどうかというのが私からの提案です。

教えて★先生!

子育ての疑問 大募集!!

0歳児から就学まで、前田准教授をはじめ東北福祉大学社会貢献センター 次世代育成支援室の先生方にお答えいただけますので、ホームページか、ハガキでお寄せください。できるだけ多くの質問に目を通していただく予定です。

■ ハガキの場合
〒980-0021 仙台市青葉区中央4-9-15-403 (株)メディアパレット
「ままぱれ」編集部「子育て質問係」宛

■ ホームページから
<http://www.media-palette.jp/mamapale/kosodate.html>



ケータイはこちら→

東北福祉大学社会貢献センター 次世代育成支援室こころ

ほんの少しの時間、お子様とはなれて、自分の心と体に向き合ってみましょう!

アフターチャイルドパースエクササイズ ~ヨガでりふれっしゅ~



日時 3月2日(水) 10:30~12:00(受付10:00~)

内容 ヨガを中心としたエクササイズ。終了後お茶を飲みながらのおしゃべり&個別相談

講師 佐藤 千恵子先生 (日本マタニティーヨーガ認定インストラクター 日本ヨーガ療法学会会員)

対象 2~12ヶ月頃のお子さんをもつママ

場所 東北福祉大学関連施設「次世代育成センター こころ」

定員 10名

参加費 2,500円 お子さん1名の託児費を含む。(さらに託児を希望される場合は別途1,000円/名)参加費は当日頂戴します。託児の必要のない方は参加費1,500円となります。

当日の持ち物 タオル・飲み物(水など)・動きやすい服装(更衣室有)・託児に必要なもの(おむつ、着替え、必要場合はミルク・哺乳瓶・ガーゼハンカチ→袋などにまとめてお持ちください。)

その他 託児を希望される場合は、申し込み時にお子さんの名前・性別・月齢・ミルクか母乳を明記してください。

申込方法 お名前・連絡先(携帯電話・FAX・E-Mail)を明記の上、FaxかE-mailで右記宛先までお申し込みください。

申込期間 2月21日(月)~2月28日(月) ※先着順とさせていただきますので、定員に満ちた場合はご了承願います。 ※お申し込みいただいた個人情報、今回の目的以外で使用することはありません。 ※キャンセルの場合は受付開始時間前までにご連絡ください。

申込先 東北福祉大学社会貢献センター 次世代育成支援室こころ
問合せ先 E-Mail : jisedaih@tfu-mail.tfu.ac.jp
Fax : 022-303-1137 Tel : 022-303-1132

東北福祉大学社会貢献センター 次世代育成支援室では、乳児をお持ちのお母さん向けの講座や親子教室を開いています。詳しくはホームページまで。 <http://www.tfu.ac.jp/ngec/index.html>